

3月28日（水）日本科学未来館毛利館長訪問時の意見交換ポイント

訪問者：渡辺副会長、遠藤委員長、江守委員

学術会議のサイエンスカフェの今後について、意見交換のポイントは下記のとおり。

学術会議のサイエンスカフェの経緯

- ・2006年に開始（黒川会長のとき）。サイエンスカフェとは何か、どうやるのかを学術会議が見せた。
- ・3年間は毎月行った。演者は手を上げて登録してもらった。「講演会」ではないというのがなかなか理解してもらえなかった。
- ・3年間やって、パターン化してきた。理系と文系の2人が話題提供する試みを始めた。東日本大震災の後に効果を発揮した。
- ・地方開催も推進したが、おそらく地方開催は「講演会」になりやすかったのではないか。
- ・だんだんサイエンスカフェが当たり前になってきたので、次のフェイズに行くべきでは。

サイエンスカフェの今後に向けて

- ・サイエンスカフェという名前をやめて、新しい名前をつけてはどうか。
- ・文系と理系などのコラボを毎回やってはどうか（一部、二部、三部があるのを活かす）。
- ・未来館のサイエンスコミュニケーター（SC）が関わることは可能だが、研究者の中にもファシリテーターが上手にできる人材を育ててほしい。（そのためのワークショップを行い、SCが参加するなど）
- ・コミュニケーションは研究者にとって本質的であるという認識の醸成が必要。コミュニケーション活動が業績として評価されるべきという提言を出してはどうか。

以上